

SORA

web magazine 2013.nov. vol.26

micronesia YAP

MAP
CLICK!

Photo & Text : Yasuaki Kagii

ヤップって、めちゃくちゃ素敵な島&海だった！

ミクロネシアにあるヤップ。グアムの隣にありながら、どことなく少し遠く感じる海。だから、なかなか訪れるタイミングがなかったけれど、今回行って見て、本当にびっくり。グアムから想像するミクロネシアのちょっぴり都会的なイメージはなく、ミクロネシアの伝統文化が色濃く残る島だった。そして、海は…。

tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2012
World Tour Planners Co., Ltd.
All Rights Reserved.



S 驚き uprise

micronesia ヤップ
YAP

ミクロネシアで最西端に位置するヤップ州は4つの島を中心としており、その西側に「ミルチャネル」、東側に「ゴフヌーチャネル」という2大マンタスポットがある。季節風の向きに応じて、1年間、マンタに出会うことができる。ゴフヌーチャネルは、南西の季節風が吹く、5月～6月からマンタのシーズンイン。11～12月から北東の風が吹き始めると、ミルズチャネルがシーズンインする。

しかし、私(鍵井)が潜ったのは、通称「ニューポイント」という、約2年半ほど前に発見された新しいマンタポイントだった。ガイドの大介さんに聞くと、「5年に一度くらいの割合で、環礁内で、マンタが出現するポイントが移動する。これまでミルズチャネルで見られたが、ここ最近は、通過するマンタばかりなので、やはり集まるポイントが変わったのかもしれない」。

それにしても、通称「ニューポイント」は、本当に素敵なポイントだった。浅瀬には極上のサンゴ礁が広がり、太陽の光は燦々と降り注ぐ。サンゴ礁のここにあるクリーニングステーションで何回も巡回しては、ずっと目の前から消えることはない。太陽の光が海中で筋となり、美しい空間を舞うマンタ。マンタが通過するとクリーニングをするお魚やスズメダイが、サンゴから抜け出してマンタの後をハラハラと追う。その様子がとてもメルヘンな世界で、これまでのマンタとの出会いの違いを楽しむことができる。水深も浅いので、リラックスして潜ることができる。そして、そのマンタの舞うサンゴの枝間に目を向けると、マンジュウイシモチなどの可愛い生き物も見つかる。

マンタに会える「ニューポイント」



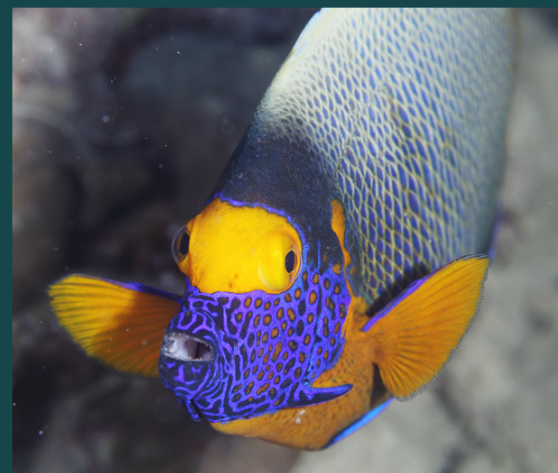
tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく



S 驚き urprise

ヤップは、マンタで本当に有名な島。なんと、交尾時期があり、12月末から3月中旬まで、求愛行動が続く。1匹にオス5匹が追いかけているシーンなど見られ、その時の動きは早めになるという。多いときは、30匹のマンタが集まり、クリーニングしながらナンパ合戦を行い、そして、交尾となる。マンタの交尾は意外とすぐに終わると、大介さんが教えてくれた。しかし、一度はその神聖なシーンに立ち会ってみたい。また、興味深いのが、今回お世話になったライズ ダイビングセンターの前に広がるプライベートエリア。チョールブルーホール（チョール村のブルーホール）というポイントでは、6～8月にマンタの出産と子マンタの捕食が見られるという。これも絶対見てみたい。

micronesia ヤップ
YAP





大介さんに聞いた！ 「ヤップに来たら、マンタをこう楽しめ」

個体識別は、お腹の柄で見分ける。子供のときから、模様が変化するので注意！（笑）
またショップによって名前が違うので悪しからず。

一度出てきたら、何日か出てくるので、同じ個体に再会できる。

ヤップでは、ゆっくり観察できるので、個体の性格までわかってくる。

カスミアジやバラフエダイ、ヘラヤガラとお供しているお魚が違う。

「ダイビングは全部マンタがいい！」というゲストでも、1ダイブでたくさん見た後は、「マンタはもういい」と言う…。

水中カメラにハマっていく。特にワイドの、フィッシュアイ派になって帰っていく。

マンタを追いかけない。クリーニングステーションまでの通路を塞がない。クリーニングステーションの中に入らない。

ということでした。ルールを守って楽しんでください！

micronesia ヤップ
YAP

S 驚き
urprise

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島



迫力の外洋ポイントで、マクロも…

ヤップのダイビングポイントは、30か所を超える。アウターリーフとインサイドリーフを織り交ぜて、それぞれ個性のあるポイントが揃っている。まず、アウターリーフの大物ポイント「マンタリッチ」。ギンガメアジの群れが慌ただしく泳ぎ、その中をマダラトビエイが通過する。カンムリブダイやインドオキアジ、マダラタルミ、ヒメフエダイなどの群れも常連で、ハタタテダイのクリーニングステーションもある。潮の流れ次第では、お魚たちが、一か所に集まり、まるで水族館のようになる。お薦めは潮の流れがインゴーイングの時だ！そして、「パーティゴ」もかなり刺激的なポイントだった。ドロップオフの棚が12mにあり、その周辺にしていると、他のダイビングセンターが餌付けしているメジロザメがどんどんと寄ってくる。ライズ ダイビングセンターは餌付けを行わないが、メジロザメとの近い距離感に緊張感を覚える。そして、このポイントはマクロの生き物も面白い。

40mにシコンハタタテハゼやアケボノハゼ。-28mにハナゴンベ、-12mにオレンジフィンアネモネフィッシュ、-5mでモンツキカエルウオやゼブラハゼなどがある。またイルカやオキゴンドウ、カジキなどの目撃例もある。

白い砂地が広がるポイント「コト」は癒し系のポイント。真っ青で目が覚めそうな海に飛び込むと、全体的に優しい光が包み込む世界が待っている。太陽に向かって成長を続ける健全なサンゴ礁を環礁しながら、ギンガハゼ、紫の目のテグリやイトヒキテンジクダイ、クチナガヨウジウオ、幼魚系、ムスジコショウダイ、チョウチョウコショウダイ、ツバメウオの幼魚トラフザメなどと出会っていく。また夕方になると3万匹は超すシマハギの集団交尾も行われるという。



インサイドリーフの楽しみ!





お昼寝ザメと 美しいサンゴ礁

そして、私がとても素敵だなと思ったのが、ライズ ダイビング センター前のハウスリーフ。エントリーしてまず驚いたのが、サンゴ礁に頭を突っ込んで何匹ものナースシャークが眠っていたこと。ゆっくりと近づいていくと、私の存在に気が付いたのか、慌てて、サンゴから顔を抜き出し、反転しては泳ぎ去っていく。ちょっと申し訳ないけれど、その慌てっぷりがとても可愛かった。そして、そのサメのベットとなっているサンゴ礁周辺のサンゴがこれまた美しい。エダサンゴの合間に薄黄色の繊細なサンゴがコンビネーションとなっていて、青い海に映える。知らない海で、知らなかった美しい景色に出会うと、本当に心がときめく。そして、ここでは念願のナポレオンフィッシュの幼魚に初めて会えた。というか結構した…。あと海底にマネーストーンが落ちているポイントもあるので、楽しみは尽きない。



R^{ロマン} omance

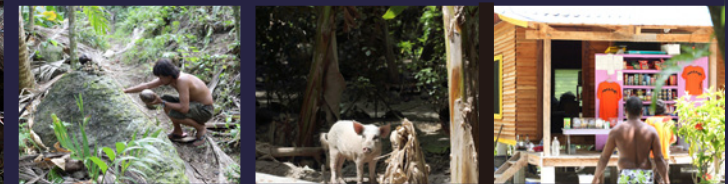
micronesia ヤップ
YAP

星の航海術(スターナビゲーション)の
カヌーと海へ！

今から数千年前、まだ羅針盤や海図やコンパス等の近代計器が存在しなかった頃、人々は夜空に輝く星の位置を手掛かりにして航海をしていた。星の航海術(スターナビゲーション)と呼ばれ南太平洋の伝統航海技術だ。現在はほとんど使われることはなくなったが、ヤップでは、伝承され続けている。その伝統的なアントリガーカヌーに乗るツアーも用意されていて、パラオ、グアムに航海した経験したクルーがカヌーを操縦してくれる。1時半～2時間かけて、インサイドリーフの美しい水面を走らせ、遠洋航海への序章の経験ができる。帆を張り、風を受けて走り出した時の体を感じる「ふぁー」と浮いたような感覚は日常生活にはない。そして、ヤップのカヌーだけの特徴であるタッキング、逆風でもじくざくに前に進むことができる。是非、経験してほしい。

tsumi-shima
ダイバーの夢を叶えていく島





今回、お世話になったライズ ダイビングセンターとヴィレッジビューホテルはヤップの町から離れた村の中にある。主要なダイビングポイントまで近いという好条件の他にも、村の中にあるということで、色濃くミクロネシアの伝統文化が残る島の雰囲気を感じることができる。一度、酋長を探するために森に向かった。酋長を初め、男たちは、カヌーを製作するために、どこかの森に居る。それを探し当てる。携帯電話もなく、ただ、彼らが居そうな場所を感覚で探した。昔、子供頃に林の中で友達を探したりしていたことを思い出した。また別の日、男たちは何をしてもいいが、一緒に居て時間を重ねている。その時間がとても素敵に思えた。今は、社会生活の中で、決められた時間に用事のある人と会い、それを繰り返している。学生の頃は、なんとなく男友達といた。でもそれだけで深い人間関係を築くことができた。ヤップにいながら、なんだかそんなことばかりを考えていた。ガイドの大介さんは、うちのスタッフには、マスクなしで-70mまで素潜りできる人がいる、とか、海岸を歩いている痩身の男性を指差して、「彼は昔、村同士の戦いの時に活躍した戦士で、今でも毎晩、違った木の上で寝ている」などと、まるで夢でも見ているかのような話をしてくれる。でも、そんな突飛もない話を信じさせるくらいの神秘性がヤップの自然や村にある。海と同じくらい、そんなおとぎの国のような雰囲気が好きになった。



ヤップはミクロネシアで最も伝統的な文化、生活様式を重んじる民族。特に土地所有者と村単位でコミュニティが暮らしの基盤になっている。伝統的な「ファルー」と呼ばれる男だけの集会所や「ライ」または「フェ」と呼ばれる石貨で、伝統的な貸借関係や婚姻の結納品などの気持ちを表すツールに使われるストーンマネーが置いてある。

聖なるものも多いので、観光にはガイド同行で行くこと。アクティビティとしては、陸力ニハーブ入りココナッツスープ、ヤップの主食（タロ、ヤム、バナナ、パンの実）盛り合わせたローカルフードを楽しむ、観光、石貨銀行、伝統建造物を訪れることができる。

他に、リゾート内で、ココナッツの葉を使用したバスケットウィービング、ヤップの日常生活で 사용되는即席バスケット、ヌーヌー（花飾り）の作り方も教えてくれる。



ライズ ダイビングセンター

イケメンガイドの紹美大介さんが率いるダイビングサービス。島の北部に位置し、北のマンタポイントまで15~20分で行ける。潮流次第では、早朝、またサンセットまでの3ダイブをマンタポイントを中心に潜ることができる。ローカルとの親密、密着度も高く、ヤップの色々な魅力を教えてくれる。



ヴィレッジビューホテル

島で、一番人気ある海水浴ビーチを持つリゾートホテル。全8室、オーシャンビューで、基本的に、必要最低限のもの(シャワー、トイレ、エアコン、冷蔵庫)などしかない。便利さより、エコなステイを楽しむ。村人が経営しているが、伝統文化経験は他のホテルよりも経験できるはず。人気のビーチは、一般にもオープンしているが、夕方5時まで。その後は、宿泊ゲストのプライベートビーチとなる。ライズ ダイビングセンターが併設されているので、とても便利。



ムーンライズカフェ

現地と密着している。ムーンライズ、目の前の海で、月が水平線から登る様子が見られることから「ムーライズ」と名付けられた。ローカル食材を生かした料理が人気で、野菜、ハーブのほとんどを自家栽培。お肉お魚料理から、イワシガーリックパスタ、女性に人気のロミ(フィリピンのカレー風野菜たっぷりうどん)、お好み焼き(ライズ風)、トロピカルカレー、BBQ、パパイヤをつけた柔らかお肉、焼きおにぎり、春巻き、パパイヤキムチなどなど、ラインナップも充実。そして、フルーツチャイも人気でバナナ、パパイヤ、サワーサップ、キンカンジュースなど、砂糖不使用でこれまた旨し。現地産のノニ茶もお薦め。

